

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部	教授	堀 建治
最終学歴	学位	専門分野
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科博士課程 後期課程 教育科学専攻 単位取得満期退学	修士（教育）	幼児教育学・保育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

本学部がめざす保育者像や学科の特性をふまえ、専門的（学問的）知識に触れながら、保育・幼児教育における具体的な事例等をもとに人の発達や子ども理解を深め、とくに「子どもの視点」から保育者の役割や援助、環境構成等を考え、意味を深く理解し主体的に行動できるようになることを理念として教育活動を行っている。

【目標】

本学の建学の精神を具現化していくことが教員の責務である。「信頼」されるということは他者から「あてにされる」ということであり、教員自らが「あてにされる」姿をみせなければならない。コロナを経験した学生が入学してくるなか、人とのかわかりやコミュニケーションがより重要となる。教育者・保育者という指導する立場に就く学生に対して、その自覚を促し続けることが第一と考える。さらに学生の持ち味や思いを引き出すことを念頭に教育活動を行う。そのために自分が学生のために何ができるのか、その点を見極めつつ教育実践を図る。

【方針】

- ・「信頼」という観点から、学生との対話を重視し、学生の思いに耳を傾ける。
- ・授業は「できる」ことのみを追求するのではなく、「わかる」ことを念頭に進めていく。
- ・上記の方法として、対話を主軸としつつ、振り返りシートやリアクションペーパーを用いての状況把握に努める。
- ・理論面に加えて、実践面での強化を図る観点から、積極的に「遊び」体験を取り入れる。
- ・さまざまな「遊び」体験を重ねることで、学生自身の充実感や満足感を高める。
- ・同時に「遊び」の実践者としての専門性や技量の向上をめざす。

【計画（方法）】

上述の教育理念・方針を達成するため、1年次前期学部必修科目である「保育原理」では授業開始時にミニッツテストを導入して、前回授業での学びに対する理解や達成度を確認しつつ、授業終了時にはリアクションシートで本時の不明確な部分や質問を書くことで意識づけを行う。また授業の中間時と最終時に進捗確認試験を実施し、自身の理解度がどの程度にあるかを確認できる機会を設ける。さらに保育指導法関連の授業では模擬保育を中心として、学生の指導力向上をめざす。2年次前期の「保育実習事前指導IA」では、実習に向けての心がまえをはじめとして、記録のまとめ方や指導案作成、さらには保育教材の作成と学外実習に向けて多岐にわたっての様々な準備を行う。その際、課題提出の双方向のやりとりを通じて、学生の理解度を把握しつつ、個別に指導を行う。さらに2年次後期の「保育実習指導IA」では実習直前に必要となる書類整備や実習に向けて

の準備、実習終了後には自己評価の作成や実習成果の発表をすることにより、学生自身の課題を浮き彫りにしつつ、次回の各種実習に向けての改善を図る。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

保育原理、保育実習事前指導Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、幼児の理解と方法、幼児と環境、幼児と言葉、保育特講

（後期）

保育実践演習、保育内容（環境）、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究、保育実習指導ⅠA、保育実習Ⅱ事前事後指導、保育実習ⅠA、保育実習Ⅱ

○教育方法の実践

「保育原理」では学生同士のディスカッションを含めて、授業内では学生の発表力やコミュニケーション力向上を図る。

○作成した教科書・教材

渡邊真帆他編著『保育内容「言葉」』学術図書出版（2025年10月出版）

○自己評価

対面授業では双方向での授業展開を心がけた。特に演習関連の授業では個別発表以外にグループ発表を加えて、学生のプレゼンテーション能力向上をめざした。そのなかでもコミュニケーションについて困難を抱えている学生に対する一定の配慮を行った。個別発表では苦手意識を抱いている学生がいるものの、概ね頑張っており取り組んでいるようである。授業の理解度については Teams を用いたミニッツペーパーで把握に努めることができた。学修内容の定着を図る点では知識を問うミニテストの導入など、さらなる評価法を検討したい。

II 研究活動

○研究課題

- 研究課題 1. 「楽しさ」に関する研究 — 「手遊び」を中心として—
- 研究課題 2. ドイツにおける保育内容の研究

○目標・計画

【目標】

研究課題 1：本研究はこれまでも継続的に行ってきており、10年弱の時間を費やしている。本年度も「楽しさ」とは何かを解明するなかで、継続して質的研究の分析方法の確立をめざす。

研究課題 2：2018年にドイツ視察以降、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今に至るまで現地調査ができていないなか、文献研究を中心に進める。

【計画】

研究課題 1：保育者や子どもの「手遊び」場面を対象に逐語記録を収集し、その分析から「楽しさ」を検討する。

研究課題 2：本年度も昨年度同様、現地での調査が厳しい中、保育の環境構成の在り方や保育方法など、文献等の資料収集を含めて検討する。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・渡邊真帆・堀建治他『新・保育シリーズ 13 保育内容「言葉」』第1章 保育・幼児教育の基本と領域「言葉」2025年、学術図書出版社、p.1-12
- ・伊藤潔志・堀建治他『哲学的な考えをいかす 新・保育原理－保育の未来を考える－』第6章3節 3歳児以上の保育を考える」2024年、教育情報出版、p.126-131
- ・永淵泰一郎編・堀建治他『新・保育内容「環境」 ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録』第5章 乳幼児の生物・自然との関わり」2023年、教育情報出版、p.44-50
- ・高内正子監修、上中修・堀建治他『保育実践に生かす保育内容「環境」』第3章4節 保育者との関係性の発達、6章6節 地域の文化にかかわる」2021年、教育情報出版、p.50-51,92-93
- ・吉見昌弘・斎藤裕・堀建治他『はじめて学ぶ保育原理 新版』第3章保育所保育指針における保育の基本」2021年、北大路書房、pp.49-63
- ・名須川知子・大方美香・立花直樹・堀建治他『MINERNA はじめて学ぶ保育シリーズ 11 施設実習』第2章 実習の現場 レッスン10 児童厚生施設およびその他の施設・事業所での実習 第3章 施設実習の実際 レッスン11 施設実習の一日(11 児童厚生施設等)、レッスン12 施設実習での体験と学び(11 児童厚生施設等)」2019年、ミネルヴァ書房、pp.19-30
- ・安田誠人・立花直樹・堀建治他『保育者の協働性を高める子ども家庭支援・子育て支援 「子ども家庭支援論」「子ども家庭支援の心理学」「子育て支援」を学ぶ』第2編 子ども家庭支援 第II部 子ども家庭支援における詳説 第9章 子ども家庭支援における計画と環境」2019年、晃洋書房、pp.109-115
- ・津金美智子・小野隆・堀建治他『新・保育実践を支える 健康』第5章2節 園での安全指導」2018年、福村出版、pp.137-146
- ・谷田貝公昭・高橋弥生・堀建治他『新版 実践保育内容シリーズ① 健康』第2章 領域「健康」とは」2018年、一藝社、pp.21-34
- ・春日晃章、中野貴博・堀建治他『新時代の保育双書 保育内容健康 第2版』第7章 安全管理と安全教育」2018年、榊みらい、pp.138-142

(学術論文)

- ・白井克尚・柿原聖治・鈴木順子・堀建治・堀篤実「保幼小接続・連携を担う保育士と教員養成の実践—教育学部・総合演習における森林環境教育を目指したプロジェクト型学習を通じて—」『東邦学誌』第52巻1号、2023年、pp.47-63
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「保育者養成テキストからみる「楽しさ」に関する研究 —保育教材としての「手遊び」を中心に—」『ユマニテク短期大学研究紀要』第3号、2020年、pp.12-17
- ・松本亜香里・堀建治・渡邊明宏「ゼミナールにおける学生の主体性と学び合い —保育教材作成および教材研究の取り組みから—」『三重幼児教育文化研究会 幼児教育文化研究』第5号、2020年、pp.25-35
- ・堀建治「保育環境のあり方に関する一考察 —ドイツにおける園庭の事例を中心として—」『三重幼児教育文化研究会 幼児教育文化研究』第5号、2020年、pp.17-23
- ・堀建治「新「幼稚園教育要領」における領域「環境」に関する研究 —教材研究のあり方を中心に—」『ユマニテク短期大学研究紀要』創刊号、2018年、pp.12-17
- ・堀建治・松本亜香里「「楽しさ」に関する基礎的研究 —「手遊び」をてがかりとして—」『三重幼児教育文化研究会 幼児教育文化研究』第3号、2018年、pp.19-26

(学会発表)

- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その13)」(『日本保育学会第76回大会発表要旨集』2025年5月11日、長野県立大学)
- ・堀建治・松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その12)」(『日本保育学会第76回大会発表要旨集』2023年5月14日、熊本学園大学)
- ・白井克尚・柿原聖治・鈴木順子・堀建治・堀篤実「幼小接続を見据えた森林環境教育を担う教員の養成 ―教育学部総合演習におけるフィールドワークを通じて―」(「初等教育カリキュラム学会」2023年1月8日、広島大学)
- ・堀建治、松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その11)」(『日本保育学会第75回大会発表要旨集』2022年5月14日、聖徳大学)
- ・堀建治、松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その10) ―新型コロナウイルス下における「手遊び」の実態を中心に―」(『日本保育学会第74回大会発表要旨集』2021年5月15日、富山大学)
- ・堀建治、松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その9) ―手遊びをてがかりとして」(『日本保育学会第73回大会発表要旨集』2020年5月17日、奈良教育大学)
- ・堀建治、松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その8) ―手遊びをてがかりとして」(『日本保育学会第72回大会発表要旨集』2019年5月4日、大妻女子大学)
- ・堀建治、松本亜香里・小杉裕子「「楽しさ」に関する基礎的研究(その7) ―手遊びをてがかりとして」(『日本保育学会第71回大会発表要旨集』2018年5月12日、宮城学院女子大学)

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

該当なし

○所属学会

日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育者養成教育学会、
日本レジャー・レクリエーション学会、日本体育・スポーツ・健康学会

○自己評価

研究に関して延期されていた著書(共著)が発行された。学会発表も予定通り1本行った。学内での共同研究もあり、次年度以降はさらに分析手法を確立しつつ、「楽しさ」の解明に向けて鋭意努力を重ねていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を中核として、自分自身が「信頼」される人物になるべく、与えられた職務に対して真摯かつ誠実な態度で臨む。

【計画】

本年度から学部長に補職され、学部及び本学の運営に関してより重責をもって任にあたる。特に学部の定員未充足が続く中、定員充足へ注力する。また昨年に加えて、学内各種委員会に所属する

が、自分に与えられた職責を全うすべく、円滑な学部運営に主体的かつ積極的に職務を遂行していく。

○学内委員等

学部長、大学協議会、人権委員会、教職支援センター運営委員会、教育学部部会、大学再編準備室（教育学部）

○自己評価

本年度から学部長として学部の取りまとめ役以外に学部外の調整者としての役割も多くなった。不慣れなところもあり、学部教員をはじめとして多くの方々に支えられながら業務遂行ができた。2025年度は学部再編の初年度でもあり、まずもって年次進行する教育課程が支障なく運用されることに配慮することに加え、学部定員の充足に向けてのより一層の努力を図っていきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

専門分野を生かしつつ、本学のさらなるブランドイメージ向上や社会的認知を意識し、自身の専門分野を生かした社会貢献をめざす。

【計画】

本年度は以下の公的機関から依頼を受けている（委嘱予定含む）。

①亀山市教育委員会家庭支援講座講師

②保育士試験実技委員（愛知県内試験委員の取りまとめ役として幹事委員を委嘱）

○学会活動等

特になし。

○地域連携・社会貢献等

予定通り遂行することができた。

○自己評価

社会的貢献は大学における重要な役割であるため、今後とも業務に支障のない範囲で積極的に参画していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

講義や学内業務について、昨年度認められた課題について改善できるよう、心がけていきたい。

VI 総括

学内業務については学部長の責務が加わり、慣れない一年であった。しかしながら学部執行部の先生方をはじめとして、関係各位に支えながらも無事に遂行できたのではないかと評価している。ただし、項目ごとに課題はあり、改善を要する点も多い。「評価は他人が行うもの」という意識をもって、さらなる高みをめざして努力を重ねていきたい。

